

市政報告

桜が丘団地

税金で尻ぬぐい

3月議会の大きな問題は、桜が丘団地に対する約15億円のでこ入れ予算と、市営住宅用地として開発公社が先行投資した土地を買い戻し市営墓地を造成すること、ごみ協力金の半額をさらに4年延長すること、JA府中病院と北市民病院を統合して寺岡記念病院が関与することでした。てこ入れ予算は、坪単価を39%値下げするためなどに補助金7億6千万円と、団地販売促進のために臨時職員の賃金などで8千万円を投入する。

市営住宅用地として

開発公社が先行投資した土地を6億5377万円で買い戻し、市営墓地とする。その整備費として約4千万を投入し、墓地は3期に分けて合計750区画を造成し、1区画(4.2m×2.2m×2.2m)を50万円で販売するというものです。

市営住宅用地として開発公社が先行投資した土地を市営墓地とする議案については桜が丘団地の居住者に説明もされていないことから反対し、厚生委員会では否決されました。

ごみ協力金の半額を4年間延長する議案は、事



3月14日 水田豊事務所開きで決意表明

発行者
小川 敏 男
水田 豊

府中市出口町 1076-4
41-7894

前に7人の議員で「無料化に戻す発議」を提出してしました。厚生委員会では4年間延長は否決され、無料化に戻す発議は可決されました。

2病院を縮小して統合する問題については、上下地区は開業医もなく今の医療体制を維持してほしいという質問に、伊藤市長は「医師不足でそれに答えられない」。しかし医師は確保されており、また、国の不採算病院に対する財政支援である特別交付税の9840万円を北市民病院に全額繰り入れてもらえば赤字会計になるという再度の質問に、「特別交付税をどう使うかは、市長の裁量」と返ってきました。県内で病院をもっている県とすべての市は全額繰り入れを行なっています。そのため急ぎよ「病院事業会計に対する特別交付税を適切に繰り入れることを求める決議」を提出しました。しかし、平成クラブと公明党によって市長案はすべて本会議で可決されました。

合意なき病院再編が進行中 一方通行の住民説明会

特集 病院問題

市が11月に発表した医療提供体制につき上下地域での住民説明会が開催をされました。医師不足を強調し、「市の案ど通りにしなければ病院はつぶれる」と危機感をあおるだけで肝心の北市民病院の将来像は示しませんでした。地区住民の間には病院が縮小されるとの懸念が消えませんが、またJA府中総合病院との話はどうなっているのか府中地区での説明会は今のところ開催されておりません。

すりかわる論点

JA府中総合病院について産婦人科の再開の要望はありましたが、市立病院にしてくれという話ではありません。

県の医療再生計画のBプランの事業者は府中市であると答弁しましたが、27億4千4百万円のうち、国の補助金は7億4千9百万円です。残りの財源をどうするのか、またJA側との話し合いはどこまで進んでいるのか。分からないことばかりです。情報開示が望まれます。

県の医療再生計画

Bプラン

事業費 27億4千4百万円
基金 7億4千9百万円
事業者負担 19億9千5百万円

抜け落ちる 過疎地医療の視点

府中北市民病院は、上下地区を中心とした旧甲奴郡エリアの中で唯一の総合病院です。統合するとしているJA府中総合病院へも車で30分以上かかる上、近くには診療所を除いて病院はありません。北市民病院はこの地域の住民の命と健康を守る拠点であり、その視点を抜きに病院の存続問題を語ることはできません。

一方通行の議論

しかるに3月議会では、医師不足を理由に市

の進める計画以外に病院として生き残る道はないと繰り返すばかりで再編計画をこり押ししようとしています。伊藤市長は審議会に上下地域の住民代表が入っていないとか赤字の問題とかは枝葉の問題だと答弁しました。決定するのは市長で地域住民はついてくればよいとする姿勢です。

再編計画の目的に疑問あり

医師不足を強調しますが、北市民病院の医師確保はもっぱら病院長と広島大学医学部との関係で築いてきたものです。伊

藤市長が医師の招へいに積極的に動いたことはありません。なぜ今になって医師不足を理由として病院の再編を強引に推し進めるのでしょうか。この案では、寺岡記念病院に医師を集めて、北市民病院、JA府中総合病院へは寺岡記念病院から医師を派遣することになります。とても過疎地域の医療を守る、公的病院であるJA府中総合病院の支援ができる内容だとは思えません。

地域医療の確保に

奇策はなし

北市民病院は赤字体質の改善を引き続き求めてゆくこと、JA府中総合病院

は県内4つの病院連結決算では黒字であり、グループとしての再建努力をまずしてもらうこと、その上で行政として出来ることをやっいていくという地道な努力こそが欠かせません。

結論は慎重に

政権交代によって、診療報酬の引き上げや特別交付税での支援が来ています。住民無視してまで早急な結論をだす必要性はありません。

これまでの経過

2009年	
3月	北市民病院改革プラン
9月	健康地域づくり審議会答申
10月	県医療再生計画
11月	市医療提供体制 中間報告

ノーサイド精神と市長

京都の先斗町にラクビーという名のスナックがあった。(いまでもあるのかもしれない)先輩と交流試合を行なった後、連れて行ってもらったものだ。私は前列の真ん中、フッカーというポジションであった。横から入れられたボールを、足でかいて後ろへ送る役目だ。スナックでは私と同じポジションの先輩がこられて、私のプレイを指導してくださる。「相手のボールは相手に渡らないように邪魔しなくちゃ」とアドバイスを受けた。ポーとしている性格がよく出ていますが、話はラクビーのノーサイドです。試合が終わったら敵も見方もない。試合中の良いプレイは誉め、気を抜いたプレイはしかり、技術は教えあうというものです。ひるがえって、府中市長はノーサイド精神がない。こだわるからだ。

今回、国は地域医療の崩壊状況から特別交付税を交付した。府中市は9,840万円だ。その額を北市民病院へ繰り出すよう要請したが、市長の答弁はNOであった。重ねて、「私たちが要請するからNOなのか、この特別交付税はもともと自民党の麻生政権が行なった政策であり、県内の公立病院をもっているすべての市が繰り出している」と再度要請しても、「市長の裁量」を理由にNOと言う。困ったもんだ。

3月9日の中国新聞に、「JA府中病院が府中市の医療計画に賛同し、北市民病院と統合する話が出ていました。気の早い人は府中病院が寺岡の傘下に入ったなどと勘違いされたのではないかと思います。実のところまだこれから協議し、将来はどうなるかわからないのが現状です。農協の組合長らで組織する業務運営委員会での答申案が出たばかりで、これには統合するという結論は出ていません。3月12日に病院に働く職員に説明がありました。石原理事長(伊藤市長と懇

まだ決まっています！
JA府中病院から

意な間柄)から、県が出した「医療再生計画」に沿ってすすめていくけど、病院を経営する厚生連もお金が出せない、これ以上赤字が膨らむと厚生連の経営にも響くので、単独で自主再建を図ってもらえないなどと無責任極まりのない話でした。本当にどこかの市長と似ています。4月から整形外科の医師が1名になります。それに伴い病院の病棟を一部なくす再編が行われ市民のみなさまには大変ご迷惑をおかけしますが、職員一丸となつてがんばります。

その場しのぎの また10年で完売

桜が丘団地の販売結果は9年で357区画中68区画(19%)、残り289区画です。ここ4年間で7区画しか売れていません。その内4区画は府中市が買ったものですが、実際には3区画しか売れなかったわけです。そこで伊藤市長は販売計画の見直しを行なった。

保留地管理法人に貸していた7億6千万円を債権放棄し、そのお金を販売計画見直しのために補助金として与える。坪単価を値下げし、1区画60坪1071万円を653万円にする。今後、毎年30区画を販売し10年で完売する。というものです。「103年、毎年1区画しか売れないのになぜ30区画売れるのか」と質問すると答弁がふるつていた。「あなたが売れない売れないと言っから桜が丘団地の評判を落として、売れない」というものだった。造成費50億円の支払いのため銀行に融資を要請したら「売れる見込みがない団地にお金は貸せない」と言ったのは地元の銀行です。見直しの前提は、なぜ桜が丘団地販売が失敗したのかという反省と市民に情報を公開することからだと思います。